

## <今朝の聖書から>

村上 定幸

【つづき】“人は自らの罪のゆえに、人として生きることを阻害され、悩みの中をさまよう”というところからの続きになります。“人と人との心かよわず、争い悩む”という讚美歌を思い出しますが、主イエスは、そのような罪の贖いのために、十字架に臨まれました（創世記9:6）。私たちには解決できない過ちを背負われたのです。“それによって私たちは愛ということを知った（Iヨハネ3:16）”のです“神が動物を食物として与えられた時、私たちは、その管理者、また責任者”として、この世界におかれました。

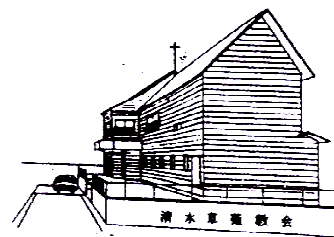
【愛は神のもの】新約聖書には、兄弟愛、救い主への愛、男女の愛を私たちに教え、間違った用い方をしてはならないと教えています。先週の聖句“生めよ増えよ地に満ちよ（創世記9:7）”という神の契約も、神が私たちの内に置かれた愛によるもの、神様から頂いているものです。第一私たちは、愛に揺り動かされることをよく知っています。また私たちの機関誌がタイトルに選んでいるように“全き愛は恐れを知らず、信仰による愛は恐れを知らない”ということも知るので。もはや夢中になっているのは、私が持ち合わせている思いによるのではなく、神が私たちを導いておられるのです。雅歌は教えます、神から頂いた愛を大いに大切にしなさいと教えます。“エルサレムのおとめたちよ、野のかもしか、雌鹿にかけて誓ってください、愛がそれを望むまでは、愛を呼びさまさない（雅歌9:5）”と語られるのです。それを知りながら“愛しているのこの私”、“主を信じるかどうかは私が決める”と思ってしまう時が私たちにはあるのです。偽りの愛（神から出たものではなく、見栄や華やかさを求める愛）が大きな傷となってしまうことを私たちは知っていると思います。そこには主にある交わりがあるはずなのに、神の言葉に耳をかさなかった故に、苦痛が生まれるのです。

【アロンから続く】詩編133をみましょう。お爺さんおばあさんが、“実に仲良く交わりの中に座している”と歌うのです、子どもたちはみな仲良く、兄弟姉妹愛を大切に、主の宮に詣でるのです。最高に美しい光景です。“ふしどに恋い慕う人を求めても、求めても、見つかりません（雅歌3:1）”という思いをすべて主に委ねているのです。そして“彼らに別れるとすぐに、恋い慕う人が見つかりました。つかまえました、もう離しません。母の家に、わたしを産んだ母の部屋にお連れします（雅歌3:4）”と主に告白をしています。“絶対に母の家にだけは連れていかない”という嫉みに、駆り立てられたとしたら、寂しい道を進むことになります。

【しかし】しかし、劣等感や、恋人の持つものを我が物に奪い取りたいという思いは付きまといまいます。私の願いは正しいのでしょうか、何を願っているのでしょうか。主に委ね、ことさらに時まで目覚めさせないように。

# 週報

2012年 3月 11日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

振替口座 00890-6-214042